

事業名	地域子ども教室推進事業
主管課及び関係課(課長名)	(主管課)生涯学習政策局生涯学習推進課(課長 芝田 政之)
上位施策目標	<p>施策目標 1 - 2 地域教育力の活性化</p> <p>達成目標 1 - 2 - 2 完全学校週 5 日制に対応した週末などにおける子ども等の体験活動の受入の場を全国的に拡充する。</p>
事業の概要	<p>学校の校庭や教室等に安全・安心して活動できる子どもの居場所(活動拠点)を緊急かつ計画的に設け、地域の大人、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体指導員等を地域子ども教室指導員として学校へ派遣し、小・中学生を対象に、放課後や週末におけるスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を実施する。</p>
予算額及び事業開始年度	<p>平成 16 年度概算要求額 : 12,505 百万円</p> <p>事業開始年度:平成 16 年度</p>
必要性	<p>最近の長崎県や沖縄県等における子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下など、子どもたちを取り巻く教育環境が悪化しており、地域社会で心豊かな子どもたちを育成することが緊急の課題となっている。</p> <p>先の通常国会で成立した次世代育成支援対策推進法では、市町村及び都道府県等において行動計画を策定し、子どもたちが自主的に参加し、自由に遊べ、安全に過ごすことのできる放課後や週末等の居場所づくりの推進や地域の教育資源を活用した多様な体験活動や世代間交流の推進、学校施設の地域開放など、地域における教育力を総合的に高めるための教育環境の整備が必要とされている。</p> <p>また、昨年度から完全実施された学校週 5 日制の下、子どもたちの様々な体験活動の場や機会を引き続き充実することが必要不可欠である。</p> <p>これらを踏まえ、未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の大人の教育力を結集し、緊急かつ計画的に学校の校庭や教室等を子どもの居場所(活動拠点)として開放し、地域の大人を指導ボランティアとして学校へ派遣し、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援する。</p>
効率性	<p>学校、家庭、地域社会が一体となって心豊かな子どもたちを育成する環境を、効率的に整備するためには、3 者が密接に関わりながら子どもたちと接することを可能とする「拠点」となる場所を設けることが効率的である。</p> <p>また、学校の教職員も含めた大学生や青少年・社会教育団体指導員、退職教員、民生委員、保護司、PTA 構成員、スポーツクラブ指導員等の、地域の大人の力を結集して実施することで、地域の大人の子どもの教育に対する関心が一層高められると共に、子どもたちの問題行動等の一因として挙げられる、地域社会との関係が希薄であることの解決が図られる。また、放課後や週末においては、子どもたち相互の関係において、様々な地域資源(人材や施設など)を活用した子どもたちの放課後などにおける体験活動を通じて、社会性・自主性など心豊かな人間性を身につけた子どもたちが明るい未来を創造していくという事業効果に加え、地域で子どもを育てていく環境を整備することにより、地域と密接に関わり合って育った子どもたちが、将来地域の振興に貢献することが期待できるほか、子どもと大人の相互学習を通じて地域コミュニケーションの再生を図るといった効果が期待される。</p> <p>本事業では、その「拠点」を主に学校に求め、子どもたちが自主的に参加し、自由に遊べ、安全に過ごすことのできる放課後や週末等の子どもの居場所を確立し、さらにそこでの「活動」を地域ぐるみで大人の力を結集して実施することにより、子どもの居場所を地域住民全体の「活動拠点」とし、学校、家庭、地域社会それぞれが抱える課題を同時に解消し、併せて地域の教育力を効率的に高めることができるなどの、大きな相互効果が及ぼされる利点がある。</p>
有効性	<p>達成効果の把握の仕方(検証の手順)</p> <p>本事業における子どもの居場所設置数及び参加者数(子ども、大人)、参加時間数、参加回数等、参加者に関する基礎データ、コーディネーター数、指導ボランティア数等、事業実施主体に関する基礎データなどの把握、相関関係の分析等。</p>

<p>得ようとする効果の達成見込みの判断根拠(判断基準)</p>	<p>子どもや地域の大人の、本事業に対する期待度や満足度の大きさや要望の数が十分であること、また、地域教育力に関する他の現状把握調査結果等との比較により、本事業の活動が充分である地域に望ましい相関結果が出ること。</p>	
<p>得ようとする効果及び達成年度</p>	<p>様々な地域資源（人材や施設など）を活用した子どもたちの放課後などにおける体験活動を通じて、社会性・自主性など心豊かな人間性を身につけた子どもたちが明るい未来を創造していくという事業効果に加え、地域で子どもを育てていく環境を整備することにより、地域と密接に関わり合っ育った子どもたちが、将来地域の振興に貢献することが期待できるほか、子どもと大人の相互学習を通じて地域コミュニケーションの再生を図るという効果が期待される。</p>	<p>達成年度 平成18年度</p>

# 地域子ども教室推進事業

## 地域子ども教室

- ・学校の校庭や教室等を子どもの居場所(活動拠点)として開放
- ・放課後や週末などの一定時間(例えば, 平日16:00~19:00 土日14:00~19:00), 子どもたちがスポーツや文化活動などの様々な体験活動を実施

### 〔活動例〕

校庭で昔ながらの遊びを楽しむ  
 絵画制作など文化活動に取り組む  
 野球やサッカーなどのスポーツを一緒にする

パソコンなどの操作等を教え合う  
 ものづくり活動に取り組む  
 など



**安全・安心に活動できるよう配慮**

地域の大人たちが指導ボランティアとして協力

## 緊急3カ年計画

初年度要求額 125億円  
 1年目 7,000校 で実施  
 2年目 14,000校 〃  
 3年目 全国定着化

## 市町村(行政)

地域教育力・体験活動推進協議会  
 (PTA, 青少年団体, NPO, ボランティア団体等で組織)  
 市町村体験活動ボランティア活動支援センター

コーディネーターを配置し, 登録された人材を子どもの居場所へ派遣



## 地域社会・企業

### 地域の大人たちの教育力を結集

・地域の大人, 退職教員, 大学生, PTA, 社会教育団体・スポーツクラブ指導員などの人材を結集し, ボランティアとして登録・協力



・地域の公民館, 児童館, NPO, NGO, 商店街, など, 関係機関や組織が連携協力して, 子ども教室を支援

### 企業の地域貢献

人材の派遣や家庭教育休暇制度を創設するなど, 家庭教育や地域貢献を支援

## 家庭

親は, 地域子ども教室への参加を促す



## 学校

地域子ども教室への参加の呼びかけ

人材の確保, 登録のため, 積極的に情報提供するなど協力

